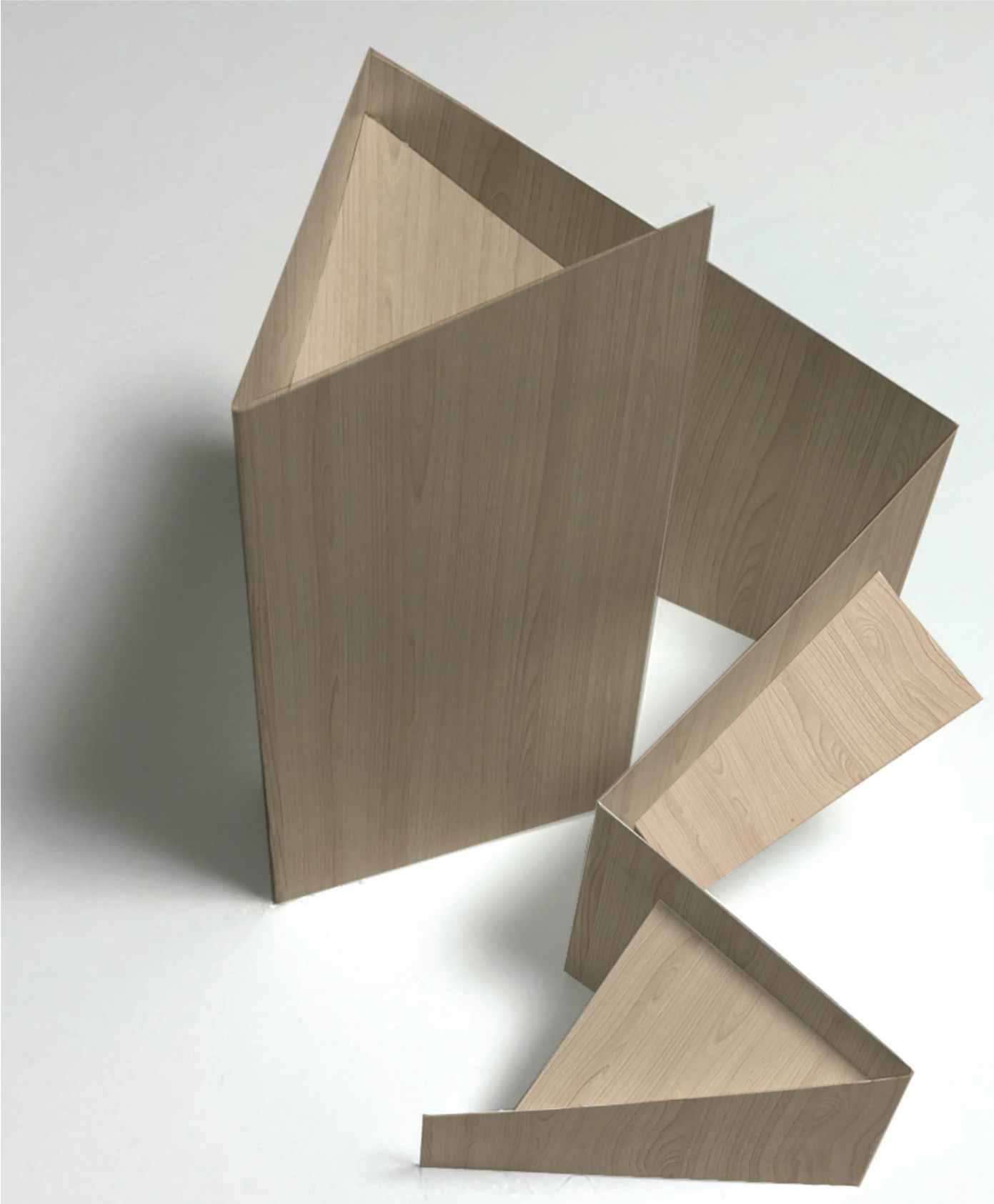




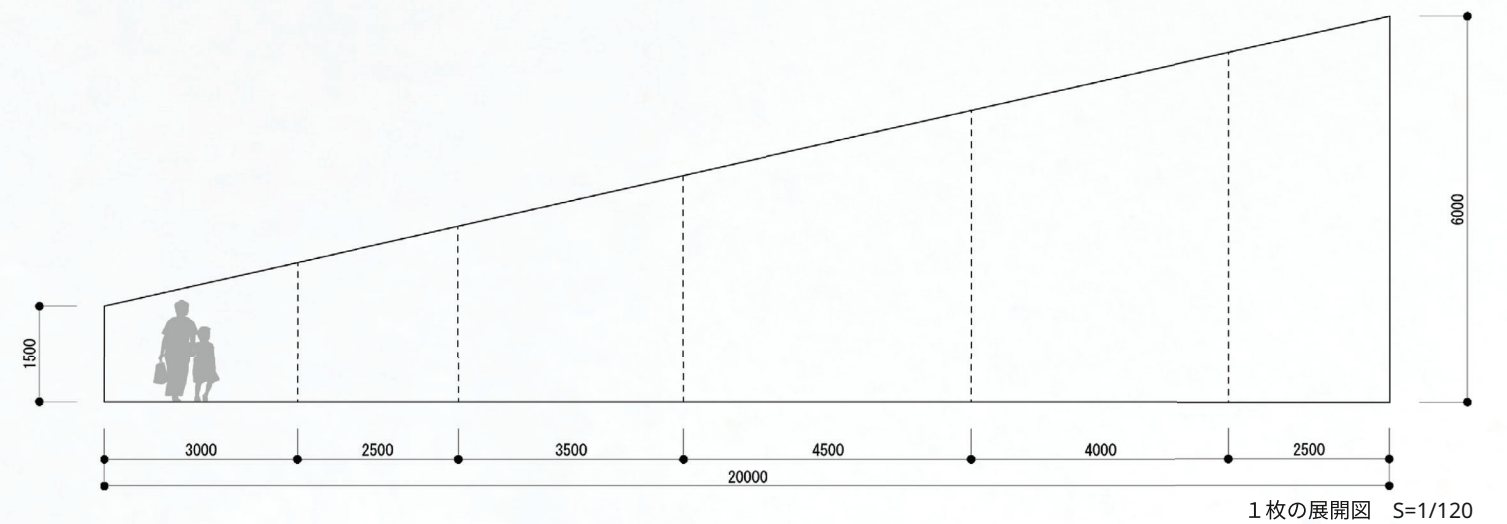
折相（せっそう）

"折"りこむ壁が"相"手との距離や間を緩やかにつなぐ場

「折る」と「包む」という行為には、折り紙や和紙の折り、手紙や折形、屏風など、日本の伝統的な造形にもつながり、襖や障子が持つ日本の空間の曖昧さにも繋がる。1枚の板を折り曲げることで生まれる空間の繋がりを活かした手法を提案する。

折り紙の持つ繊細さと構造的合理性を融合させ、視線の抜けや風の流れ、光と影を活かした動的空間かつ連続性を創出する。折ることで生まれる立体的な形状が機能と美を兼ね備え、空間の豊かさで新たな技法の可能性があると考える。

この彫刻のようにもあり外界と適度に距離感を生み出す空間の設置場所は、広島にある平和記念公園を想定し、訪れた人が少し座って休憩できて思い思いの感情に浸れるように内側に行けば行くほど瞑想できるような休憩所を提案する。



【「折相」の空間創出プロセス】・・・衝立を折って外部を折り込んで内部化していく。折り方により内部と外部の関係性が変容するため、場所性や用途に合わせた汎用性をもつ。

